

香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑱

慢性痛とペインクリニック

痛みは体の異常を知らせる危険信号ともいえます。榎木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みを伴うあらゆる病気の治療について分かりやすく説明してくれるこのコラム。第17回のカルテは「硬膜外ブロック」についてです。

痛みは体の異常を知らせる危険信号ともいえます。榎木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みを伴うあらゆる病気の治療について分かりやすく説明してくれるこのコラム。第17回のカルテは「硬膜外ブロック」についてです。

痛みは体の異常を知らせる危険信号ともいえます。榎木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みを伴うあらゆる病気の治療について分かりやすく説明してくれるこのコラム。第17回のカルテは「硬膜外ブロック」についてです。

痛みは体の異常を知らせる危険信号ともいえます。榎木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みを伴うあらゆる病気の治療について分かりやすく説明してくれるこのコラム。第17回のカルテは「硬膜外ブロック」についてです。

号を止めたり弱めたりすることができません。そして神経から出る信号を遮断する治療をブロック治療といえます。

痛みがあると交感神経が活発に働き、血管を収縮させ血流を悪くし、血液の流れが改善され

痛みが出す物質を洗い流し、神経の腫れを減らさせます。腰や足がボ

力ボカと温かくなり、知覚神経に薬が広がること

を痛めつけるため血流が悪化する悪循環に陥りま

す。ブロック治療によってこの痛みが悪循環を絶ち切ることが可能です。

硬膜外ブロックで硬膜外腔に注射された薬は硬

膜に沿って流れ、神経に少しずつ浸透し、交感

神経に達すると神経の緊張が鎮まり血管が開きま

す。そのため血液が多く流れるようになり神経の

疲れを改善します。血液の流れが改善され

ると痛みを出す物質を洗い流し、神経の腫れを減らさ

せます。腰や足がボ力ボカと温かくなり、知覚神経に薬が広がること



で痛みを伝える信号をブロックして患部の痛みが緩和されます。また同時に運動神経も休ませることで筋肉の緊張が取れるという「二石三鳥」の仕組みになっています。



香曾我部義則先生

榎木病院麻酔科 第一部長を経て平成16年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て平成16年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

榎木病院(西花尻) ☎(2903) 33555代